

急性 B 型大動脈解離における重症呼吸不全の原因と病態の解明

2013 年 1 月 1 日から 2021 年 7 月 31 日までに急性 B 型大動脈解離のために入院した患者さん

研究協力のお願い

当科では「急性 B 型大動脈解離における重症呼吸不全の原因と病態の解明」という研究を倫理委員会の承認並びに施設長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2013 年 1 月 1 日より 2021 年 7 月 31 日までに日本医科大学付属病院 循環器内科または心臓血管集中治療科または心臓血管外科にて、急性 B 型大動脈解離のために入院した患者さんの、入院中におこった「重症の呼吸状態の悪化」を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：急性 B 型大動脈解離における重症呼吸不全の原因と病態の解明

研究期間：研究実施許可日より 2025 年 3 月 31 日

研究責任者：日本医科大学付属病院 循環器内科：坪 宏一

(2) 研究の意義、目的について

急性 B 型大動脈解離患者さんにおいて、呼吸状態の悪化（呼吸不全）はしばしばおこりますが、ほとんどの場合には酸素マスクで対応が可能です。しかし、気管挿管（口から管をいれて人工呼吸器につないで呼吸管理をすること）を要するような重症の呼吸不全がまれにおこります。この研究では、急性 B 型大動脈解離患者さんにおいて、気管挿管を必要とする重症の呼吸不全が、どのような患者さんに、なぜおこるのかを明らかにすることを目的とします

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2013 年 1 月 1 日より 2021 年 7 月 31 日までに日本医科大学付属病院 循環器内科または心臓血管集中治療科または心臓血管外科に入院して、治療を受けられた患者さんの、電子カルテ情報（カルテ記載、CT 画像、血液生化学データ、臨床経過のチャート等）を用いて、患者さんの入院前の背景、入院時の状態、入院後の呼吸状態の変化を詳細に調べます。呼吸状態悪化がひどく気管挿管をした患者さんと、それ以外の患者さんの、2 つのグループにわけてその違いを詳細に検討することで、ひどい呼吸状態の悪化はなぜ、どのようにして起こるのかを検討いたします。患者さんの電子カルテ上のデータだけをもちいて研究をするので、皆さまの健康状態への影響は全くありません。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 循環器内科 病院講師：坪 宏一

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24792

メールアドレス：koichi-a@nms.ac.jp